

## 産学官連携事業の記録 「やぶ市民交流広場～ハーベストウェディング～」

向山久子・齋藤耕一・千田啓互

### Records of Industry-Academia-Government Collaboration Project ～ Yabu Municipal Community Center, Harvest Wedding ～

Hisako MUKAIYAMA, Koichi SAITO and Keigo SENDA

#### Abstract

Under the theme 'Harvest Wedding', our students recently conducted a wedding ceremony, the first event to be held at the newly opened Yabu municipal community center, dubbed 'YB fab'. This event was held under a comprehensive agreement with Yabu City, Hyogo Prefecture, part of industry-academia-government collaboration. The students planned and implemented an entire wedding for a couple connected to Yabu, doing everything from initial planning to conducting the wedding ceremony on the wedding day. It was the culmination of two years of study by the students. This event served the dual purpose of publicizing the new community center as a culture and meeting spot for Yabu citizens, and motivating our college's students to study even harder in future. There will be a report made on this project covering everything from initial preparation to presentation on the event day, and a questionnaire will be given to determine how far students have progressed.

Keywords: Industry-academia-government collaboration project 産学官連携事業,  
Presentation of the educational achievement 学習成果発表,  
Wedding Ceremony, Reception 結婚式, 披露宴,  
Harvest Wedding ハーベストウェディング

#### 1. はじめに

2020年9月に兵庫県養父市と結んだ包括連携協定に基づき、産学官連携事業の一環として、「ハーベストウェディング」に参画した。ハーベストウェディングの目的は、兵庫県養父市に新設する「やぶ市民交流広場（通称：YB fab）」（以下、YB fab）のオープニングイベントの一つとして養父市民に継続的な利

用方法をPRすること、そして本学のキャリア創造学科3コース、ブライダルデザインコース（以下、ブライダル）、製菓クリエイトコース（以下、製菓）、ビューティーデザインコース（以下、ビューティー）の学生が企画から運営まで関わりながら、学習成果を発表することである。

本報では本学学生の取り組みの記録と結果

について報告する。

## 2. ハーベストウェディングの概要

2021年10月24日、YB fabのホールとライブラリー間の小路にて開催された(写真1、2)。



写真1. YB fab



写真2. 小路

YB fabは「人と文化と郷土をつなぎ、未来を創る学びと交流の拠点」をコンセプトに、公民館、ホール、図書館、公園としての機能を備えた施設として<sup>(1)</sup>、2018年からプロジェクトがスタートした。

設計段階において、初期プロジェクトメンバーである阪急コンストラクション・マネジメント株式会社(以下、阪急CM)、関西大学環境都市工学部建築学科都市設計研究室(以下、関西大学都市設計研究室)と養父市地元の高校生によるワークショップが開かれ、その中で「小路で結婚式をしては?」との提案があったことから、専門コースを有す

る本学に2019年8月、打診があった。

2019年9月より関係者打ち合わせや現地視察を実施(表1)、2020年4月には新たなメンバーとして、ウェディングプロデュースを手掛ける株式会社CALARS(以下、CALARS)が加わり、実施に向けて準備を進めた。後の2020年9月に、本学とCALARSは包括連携協定を結んだ。

表1. 関係者打合せ・視察の記録

2019/9/2	初回打合せ	8/6	関係者打合せ
10/24	養父市訪問	8/28	関係者打合せ
11/29	関係者打合せ	9/16	関係者打合せ
12/20	関係者打合せ	9/25	養父市訪問
2020/1/31	関係者打合せ	10/26	関係者打合せ
3/5	関係者打合せ	12/16	関係者打合せ
3/27	CALARS訪問	2021/1/8	関係者打合せ
5/26	関係者打合せ	1/17	カップル主旨説明会と抽選
6/9	関係者打合せ	4/9	新郎新婦打合せ
6/22	関係者打合せ	5/21	関係者打合せ
7/6	関係者打合せ	7/22	新郎新婦打合せ
7/20	関係者打合せ	8/27	関係者打合せ
7/30	養父市訪問	9/24	関係者打合せ
		10/3	事前視察

2020年10月、養父市より結婚식을希望する養父市民のカップルを公募し(写真3、4)、2021年1月に1組のカップルが選ばれ、挙式は養父市からのプレゼントとし、カップルの希望があれば披露宴も実施可能とし、その際の費用はカップルの自己負担とした。



写真 3. カップル募集・案内チラシ表面 (転載)



写真 4. カップル募集・案内チラシ裏面 (転載)

準備段階では、小路での結婚式に加え、YB fab の敷地内で養父地元の農産物等を物販する収穫祭も同時開催として検討していたが、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、2021年9月24日に、最小規模の結婚式のみを実施すると決定し、実施した。

2021年10月24日の結婚式・披露宴には、

本学教職員6名、学生29名(ブライダル23名、製菓4名、ビューティー2名)が参加し、ブライダルの学生は2021年4月より授業の実習として準備を進めた。

ブライダルの学生は当日の運営全般にも関わり、会場設営、受付での参列者案内、新郎新婦アテンド、挙式進行、披露宴進行や飲食の提供まで担い、製菓の学生はウェディングケーキの製作、ビューティーの学生は新郎新婦のヘアメイクを担当した。

### 3. ブライダルデザインコースの授業取り組み

2019年にプロジェクトの骨子が決まり、2020年度入学生23名が、卒業制作としてこのハーベストウェディングに関わることにした。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い入学直後から一斉休講が続き不安な学生生活がスタートする中、6月に一部対面授業を再開、1年次の各授業内で専門知識を習得しながら2年次の最終的な目標としてこのプロジェクトに関わる意識付けを行った。

2021年4月から、2年次の前期科目「ブライダルプロデュース実習(160分授業×13回)」内と後期科目「キャリアデザイン特論(105分×13回)」で企画・提案内容についてグループワークを中心に実施し、また装飾アイテムの製作もすべて学生が手掛けた。特に、関西大学都市設計研究室が主体となって手掛けた挙式場所の花天井の装飾アイテム(以下、花チュール)は、養父市福祉施設たんぼぼワークの皆さんにも協力いただき、すべて手作りで完成させた(写真5)。また、授業内容は教員とCALARSで共有し、新郎新婦とのコミュニケーションを取る仕組みとした。本来であれば、学生と新郎新婦やCALARSが直接関わりながら準備を進めることが望ましかったが、授業曜日や時間の関係上、困難な点があり苦労した。一方、間接的ではあったが、模擬ではなく本当の新郎新

婦と関わる中で、要望から具体的に提案する難しさや伝え方を工夫する体験ができたことは、学生の成長に繋がった。



写真5. 授業風景 花チュール製作

### 3.1. グループワーク

授業では、4人～5人のグループカテゴリー（1.挙式、2.衣裳・ヘアメイク、3.ペーパーアイテム、4.コーディネート、5.ブーケ）に分けた。各グループでは、新郎新婦の要望に合わせて提案していくため、ヒアリングする際に必要な質問内容を考え、ヒアリング後には要望に合わせていくつかの選択肢から選んでいただけるよう、複数の提案内容を準備した（写真6）。また、2021年7月、新郎新婦に本学へ来学いただき、学生との顔合わせや衣裳合わせ、提案に基づく打ち合わせを行った（写真7）。



写真6. 授業風景 グループワーク



写真7. 授業風景  
新郎新婦との打ち合わせ

グループワークを基本とすることで、協働意識を高めると同時に、他者の意見や考えを受け入れながら自分の意見や考えを主張する訓練に繋がった。

### 3.2. 事前視察

学内での準備だけでは、当日の運営を想定することに限度があるため、事前に完成した施設の視察を実施した。本来なら、夏期休暇中に実施し、後期の授業に活用する予定だったが、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言下であったため、10月3日に一部の学生13名のみで視察を実施した。その際、新婦の衣裳サイズチェックとビューティーの学生によるヘアメイクリハーサルを行い、当日に向けて準備を進めた（写真8）。

配置や距離感、当日の流れを確認すること



写真8. 事前視察時のヘアメイクリハーサル

で、残りの期間で何をすべきか学生自身が考えられたことは、最終準備に役立った。

#### 4. ハーベストウェディングの詳細

##### 4.1. 前日準備

本学学生と教職員は、実施前日に現地入りし、阪急 CM、関西大学都市設計研究室、CALARS スタッフとともに、挙式と披露宴場所の設営及び準備をした(写真9)。また、製菓の学生は担当教員の指導のもと、ウェディングケーキの下準備を行い、当日に備えた(写真10)。



写真9. 前日の設営・準備



写真10. 前日のウェディングケーキ準備

このように、学内の学習や準備してきたものが一つ一つ形になる過程を体験した。

##### 4.2. 当日準備

当日は早朝より各役割に応じた最終準備に

取り掛かり(写真11)、新郎新婦の支度も並行して行われた。



写真11. 当日の準備

学生の役割分担については、準備過程や関連授業の成績、学内行事時の役割経験やコミュニケーション能力・判断力、アルバイト経験等を総合的に考慮し、担当教員が決定した。

(役割分担)

- ・新郎新婦アテンドスタッフ
- ・挙式時誘導スタッフ
- ・披露宴時誘導スタッフ
- ・受付設営スタッフ
- ・挙式設営スタッフ
- ・披露宴設営スタッフ
- ・受付ドリンクスタッフ
- ・受付アテンドスタッフ
- ・挙式運営スタッフ
- ・披露宴サービススタッフ
- ・披露宴アテンドスタッフ
- ・バルーン準備設営スタッフ

##### 4.3. 挙式

11時00分より写真撮影と挙式リハーサルを行い、12時30分より人前式を挙げる。挙式では、養父市ならではの演出として、広瀬栄市長とイメージキャラクターのやぶーが登壇し結婚宣言を行ったり(写真12)、水合わせの儀に因んで養父地元の飲料「やぶジンジャーすかつしゅ」を使用した演出(写真

13)を取り入れた。これらのアイデアは、学生のグループワークを基に実施した。約20分の挙式は、親族や友人に加え養父市民の方々からの祝福を受け、新郎新婦にとっても携わった学生にとっても代えがたい時間となった。挙式後は新郎新婦を囲み、バルーン



写真 12. 挙式の演出  
広瀬栄市長とやっぷーによる結婚宣言



写真 13. 挙式の演出  
やぶジンジャーすかつしゅセレモニー



写真 14. 挙式後の演出  
バルーンリリース

を晴天の空に放ち、集う人々の幸せを願う演出を行った(写真14)。

#### 4.4. 披露宴

12時30分より、屋外の芝生ひろばで親族と友人約20名の披露宴を開宴した。

披露宴では、挙式演出で使用した「やぶジンジャーすかつしゅ」で乾杯し、製菓の学生は手掛けたウェディングケーキをお披露目し(写真15)、続いて新郎新婦によるウェディングケーキ入刀(写真16)の演出を行った。



写真 15. 披露宴の演出  
製菓の学生によるウェディングケーキ



写真 16. 披露宴の演出  
ウェディングケーキ入刀

ブライダルの学生は、2年次前期の「ブライダルサービス演習」で習得した知識や技術を活かし、実際に料理・飲料のサービス提供を行った(写真17)。



写真 17. 学生による料理・飲料の提供

お色直しでは、ビューティーの学生が、ヘアメイクチェンジを、ブライダルの学生が衣裳チェンジを担当し、再入場した（写真 18）。



写真 18. お色直し

披露宴後半は、新郎新婦の希望もあり食事をゆっくり楽しむ進行とした。結びの時間では、新婦が家族へ感謝の手紙を朗読し、改めてお二人の想いの深さを感じる時間となった（写真 19）。特にブライダルの学生は、準備段階では「楽しんでいただく」「思い出の時間を創る」ことを第一に考えて取り組んでいたが、時間が近づくにつれ、「成功するのか?」「準備不足はないのか?」「本当に楽しんでもらえるのか?」等の不安や心配も抱えていた。この結びのシーンでお二人の表情や言葉を目の当たりにし、それまでの不安を払拭することが出来たのではないだろうか。



写真 19. 披露宴の演出  
新婦手紙朗読

#### 4.5. お披露喜

披露宴のお披露喜後、学生代表より新郎新婦に御礼の挨拶を述べ、新郎新婦から、誰にも経験できない思い出ができたこと、学生が一生懸命に携わってくれたことへの労いの言葉をいただいた（写真 20）。



写真 20. お披露喜後のあいさつ

### 5. メディア情報

#### 5.1. 養父市との包括連携協定の締結、本プロジェクト実施、拳式カップル募集に関する記事

2020年9月25日に締結した養父市との包括連携協定の締結に関する記事は次のとおりである。<sup>(2)</sup> <sup>(3)</sup> <sup>(4)</sup> <sup>(5)</sup>

### 5.2. ハーベストウェディングに関する記事

2021年10月24日、挙式・披露宴に関する記事は次のとおりである。

神戸新聞 2021年10月26日掲載(写真21)<sup>(6)</sup>

毎日新聞 2021年10月30日掲載(写真22)<sup>(7)</sup>



写真 21. 神戸新聞掲載記事



写真 22. 毎日新聞掲載記事

### 6. 学習成果のアンケート実施

産官学連携事業が学生にとって有益になったのか、また今後の課題を明らかにするため、アンケートを実施。集計結果の詳細は下記のとおりである。(対象数 29 名、回答数 27 名、回答率 93.1%)

### 6.1. このプロジェクトの満足度を教えてください

「とても満足」が81%、「満足」が19%であった(図1)。

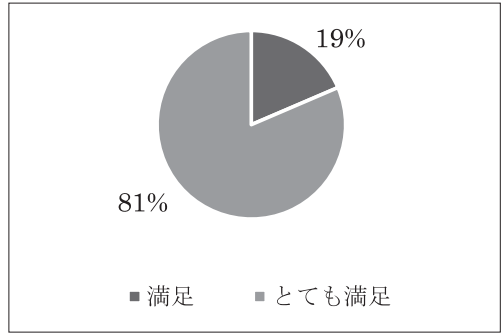


図 1. プロジェクトの満足度 (n=27)

### 6.2. このプロジェクトをとおして、どのような力が身につきましたか？(複数回答)

「コミュニケーション能力」「行動力」「思考力」の順で回答が多く挙げられた(図2)。

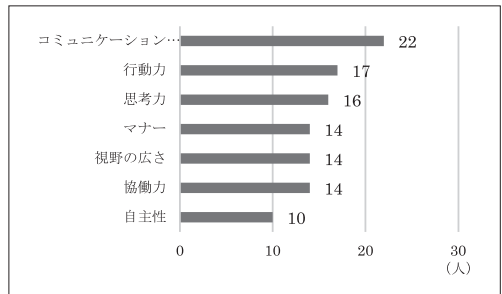


図 2. 身についた力 (n=27)

### 6.3. これまでの学びが役に立ちましたか？

「とても役立った」が74%、「少し役立った」が15%、「あまり役立たなかった」が11%であった(図3)。



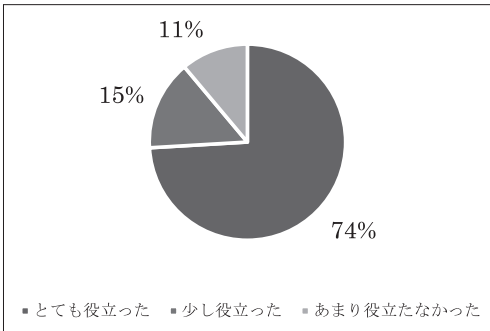


図 3. 今までの学びが役に立ったか(n=27)

以下は、「とても役立つ」「少し役立つ」の回答者から抜粋したものをコース別に記す。

(ブライダル)

- ・ 授業で学んだことに理由をつけたして何かを提案したり、どんな動きや声掛けで連携をとったりするかなどが今回活かされたなど感じた。
- ・ コミュニケーションのとり方やバルーンリリースの意味などをサービスの授業で学んで、打ち合わせで新郎新婦に提案出来た。
- ・ 今までにブライダルの授業で学んだことや模擬挙式で実際に体験にしたことが披露宴アテンドをさせてもらったときに発揮できたと思う。
- ・ 学んだ事プラス自分達で考えたブーケのデザインや実際に新郎新婦の素敵な表情が見れて良かった。
- ・ これまで勉強してきたことが頭に入っていたので自分のやるべきポジションでの仕事を効率よくこなせた。

(ビューティー)

- ・ メイク技術やヘアアレンジ、マナー等。
- ・ メイク実習で学んだことがいかされた。

(製菓)

- ・ ウェディングケーキをカットする為に一度フルーツを取ってから綺麗に直してカットすること。
- ・ 実習で学んだ基礎技術、デザイン力。

以上のように、学生が授業や学生生活で学んだことを基に、自身で考え行動したことに成長が見られる。

また、「あまり役立たなかった」の回答者からは、「学んだ内容を発揮できる場が少なかった」や「学んだことを活かすというより、初対面の人と関わるコミュニケーションを活かす仕事だった」の回答があった。合わせて、「当日はあまりすることがなかったが、今までの学びを役立つというより、自主的に聞いて動く感じで新しい経験ができて良かった」と前向きな回答があった。

#### 6.4. 今回の経験が今後に活かせそうですか？

「とても活かせる」の回答が89%と高く、「少し活かせる」が11%であった(図4)。

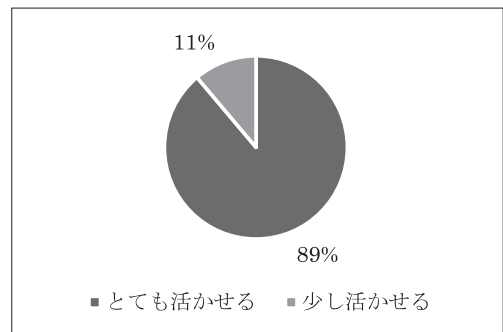


図 4. 今後に活かせそうか (n=27)

#### 6.5. どのようなことに活かせそうですか？(自由記述)

以下、学生の回答を記す。

- ・ 結婚式のヘアメイクはとても貴重な経験だったし、就職先でもヘアメイクをするので活かせると思う。
- ・ 普通の挙式ではできない経験や緊張感を体験することができた。上手くいったこと、上手くいかなかったこともあったけど全部含めて、伝え方や見方を変えたりして別のことにも活かしていけるなど感じた。

- ・考えて行動する事やみんなと改善作業をしたりコミュニケーションをとったりすることに活かせると思った。
- ・日常生活で周りの人がどういう気持ちなのかどういう行動をとりたいと思っているのかを広い視野で考えることに活かせると思う。
- ・結婚式を一から作り上げる、という面でこれからはそういう仕事に就かないと経験できないことだと思うので、今回の貴重な経験は社会に出る上で役に立つことだと思う。
- ・今回で目上の人への実際の態度とかマナーなどがとても身についたし、自分から仕事を探しに行く積極性も身についたので、これから役立つと思った。
- ・自分たちで考え、案を出してそれが結果になるということを学べた。この経験が出来たので、これから友人に対してや職場での意見を出して、それが結果になるということができたらとても楽しいんだということがわかった。今後活かしていこうと思う。
- ・ホスピタリティの心やどのように動けばいいかを少しでも体験できたので、これから活かしていきたいと思う。
- ・周りとの協力して創っていくことで協働力が生まれたり、言葉遣いやマナーに気をつけてお客様と接したり、場合によって自分1人で考え行動することの自主性も生まれたと思うのでこれから社会にでて活かしていけるなと思う。

以上のように様々な意見が挙げられた。ブライダルは就職先がブライダル業界ではない学生が多いが、違う業種でも社会人として活かせることがあると感じたことは、成果であった。

## 6.6. 考察

このプロジェクトをとおして、学内での学

びを産官学連携事業に繋げていく重要性を感じた。その「繋がり」の必要性を学生自身が認識することで、更に自主性が伸びていくと考えられる。

アンケート結果から、「プロジェクトへの参加満足度」に加え、「これまでの学びが役立てた」、「今回の経験が今後活かせる」という回答が高かったことは、成果として評価できるものである。

この要因としては、それぞれの役割と責任を果たした先に、その場で新郎新婦や参列者、ご指導いただいた CALARS のスタッフからの声を直接貰えたことではないだろうか。

これまでの産官学連携事業の形態とは違い、過程において学外関係者と関わることは、学修成果の向上に繋がるものであった。その理由としては、単なるイベントへの参加にとどまらず、長期プロジェクトの一員としての責任感、周囲と協働する困難さと喜び、誰かの役に立てた達成感を、時系列で得られたからである。また、学外関係者と関わる時間や人数が増えることで、コミュニケーション能力・自主性・思考力が求められ、徐々に学生の自覚や自信に繋がり、良いサイクルを生み出した。

反面、参加学生一人一人の役割をしっかりと見極め、経験できる仕組みを作っていくことは今後の課題である。

この経験を今後の教学に活かし、より学生にとって有益な学修環境を整えていく。

## 7. おわりに

プロジェクト初期には予想していなかったコロナ禍で実施が危ぶまれた時期もあり、また長期に渡る準備期間では、学生のモチベーションを持続することは容易ではなかったが、前日準備から当日の結婚式及び披露宴と、時間が進むにつれそれぞれの責任を認識して動く学生の姿に、確実な成長を見ることでできた。

## 8. 謝辞

ハーベストウェディングを主催していただいた養父市役所関係者の皆様、各関係者のパイプとなっていただいた阪急 CM の皆様、学生との協働を快く受け入れていただきました CALARS の皆様、ワークショップをとおしてこのプロジェクトのきっかけを作っていただいた関西大学都市設計研究室の皆様、そして大切な時間を学生にお任せいただいた圓山様ご夫妻、皆様に心より感謝いたします。

合わせて関係者の皆さまには、本研究の報告内容及び写真掲載に快諾いただき御礼申し上げます。

## 引用・参考文献

- (1) やぶ市民交流広場ホームページ  
(<https://www.city.yabu.hyogo.jp/bunka/index.html>)  
(最終閲覧 2021 年 11 月 3 日)
- (2) 毎日新聞 2020 年 9 月 28 日掲載
- (3) 読売新聞 2020 年 9 月 29 日掲載
- (4) 神戸新聞 2020 年 10 月 5 日掲載
- (5) 朝日新聞デジタル  
(<https://www.asahi.com/articles/ASNC36QNVNC3PIHB002.html>)  
(最終閲覧 2021 年 11 月 3 日)
- (6) 神戸新聞 2021 年 10 月 26 日掲載
- (7) 毎日新聞 2021 年 10 月 30 日掲載

\*掲載写真は本学関係者撮影